

紫雲会 TIMES



1

volume

高松商業
高等学校

高松商業高等学校同窓会紫雲会会報誌



紫雲奨学会よりお知らせ

1 沿革

奨学金制度の発足	昭和 37(1962) 年 (高松商業高校創立 60 周年の記念事業)
財団法人の成立	昭和 49(1974) 年 3 月 6 日
公益法人への移行	平成 25(2013) 年 4 月 1 日
事業種別	奨学金事業及び課外活動助成事業
事業内容	奨学金の給付、課外活動助成及び課外活動用バスへの助成



紫雲奨学会理事長
中筋政人
(昭和 51 年卒)

2 事業目的

当法人は、学術優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学困難な学生に対する奨学援護に関する事業を行うことで社会的有用な人材を養成すること及び国際理解教育の推進、スポーツの振興及び文化及び芸術の発展に寄与することを目的とする。

3 令和 6 年度公益事業の実績

(1) 奨学金の給付事業	年間総額	1,080,000 円
・高松商業高校在学 各学年 3 名	月額	10,000 円 × 9 名 × 12 か月
(この奨学金は、返済の必要のない「支給型」の奨学金です。2025 年 3 月末時点、累計で 190 名に奨学金を給付。)		
(2) 生徒の課外活動に関する助成事業	年間総額	2,100,000 円
① 全国大会出場助成	1,600,000 円	
インターハイ等全国大会参加者 320 人に 1 人当たり 5 千円を助成		
7 月、9 月、12 月、2 月に贈呈式を実施		
② マイクロバスへの助成	500,000 円	
部活動等で使用するマイクロバス (2 台) の自動車保険、点検料等の費用を助成		
③ 備品助成	0 円	
部活動に備品を助成		
合 計	3,180,000 円	

みなさまのあたたかいご支援をお待ちしています

常日頃より紫雲奨学会の活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

紫雲奨学会では、経済的理由で高商生の明るい未来を閉ざさぬよう、みなさまにご支援ご寄付をお願いしています。当財団の目的に賛同し、事業運営にご協力いただける方は、ぜひ事務局にご一報ください。加入申込書をお送りいたします。

年会費			
個人会員	1 口	3 千円	(紫雲会年会費とは)
法人会員	1 口	3 万円	(別のものです。)

※当財団は税額控除対象の公益法人に認定されています。



全国大会出場助成金贈呈式の記念写真

所在地：香川県高松市松島一丁目 18 番 54 号
香川県立高松商業高等学校内
TEL 087-833-1971

ホームページ：<http://www.shiun-syougakukai.com/index.html>



昭和 46 年卒
紫雲会会長 松野 誠寛

紫雲会 TIMES 創刊を祝して

第 9 代「高商同窓会紫雲会」会長の、松野誠寛であります。昨年九月の総会から、岡義博会長の後任を仰せつかっております。昭和 46 年卒の 72 歳、6 回目の年男で御座います。商業科進学組から明治大学へ進学し、麵職人から不動産仲介業を今も、一人現役でやっております。

紫雲会会則の第二条目的、「会員相互の親和連絡を図り併せて母校の発展を援助する」を実践すべく、二千百の年会費徴収を本格化し、見返りとしてこの広報誌を発刊しています。毎回毎にテーマを決め、人に焦点をあてて創刊号は「甲子園大会」で、原稿を書く人各々が「甲子園大会」の思い出や期待を込めています。

「高商は一つ」として、『紫雲奨学会』と『東京大阪両支部』も一緒に紙面を構成し、将来的にはホームページからダウンロードしてもらえるように、A4 版で仕上げております。一層「見える化」を図り、卒業生の老若男女が関心を示し片や後輩達に、エールを贈る情報誌を目指して創りました。まずは今年の会費納入者と、甲子園募金者に郵送しております。どうぞ「紫雲会 TIMES」をお楽しみください。結びに、みなさま方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。頓首再拝

伝統の重み

4 月に高松商業高校に着任し、紫雲会 TIMES 創刊号に掲載できることを光栄に感謝します。私は高商に 15 年間勤務(数学・英語実務科)したあと、13 年ぶり戻ってきました。学級担任として生徒との関りが精一杯で意識しなかった高商の伝統の重みを、校長として強く感じています。本校の卒業生は 3 万人を超え、全国各地で活躍しています。高商と言えば「野球」、甲子園での活躍はご存知のとおりです。OB の末包選手は広島カープの主砲としてチームを牽引しています。女子ハンドボール部が春の全国選抜大会で準優勝しました。日本代表も輩出しています。進学・就職も輝かしい実績です。これらは、先輩方が築きあげてきた 125 年間の伝統のもとに成り立っています。私にはこの



新任校長 吉田 稔

伝統を引き継ぎ、未来の高商生のために繋いでいく責任があります。「わくわく登校、いきいき下校」をモットーに、高商生が心弾んで登校し活力にあふれて下校、次の日の朝も「わくわく登校」する学校をめざします。会員皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

『斯界の中堅』たる皆様への感謝

今年度の始め、4 月の始業式で生徒の皆さんに本校の校訓について話をしようと思案した際に私自身が非常に得心したことがあります。本校の校訓は「至誠」「剛健」「協同」「勤労」「敬愛」の 5 つ。この 5 つの言葉を体現した人をお願いしたとき、その人は私たちの指導者ではなく、仲間なのではないか。共に事を成したくなる、とびつき頼れる友なのだと。なるほど高商は信長・秀吉ではなく、龍馬を世に送らんとする学び舎なのだと。そしてそんなとびつきの仲間の絆をもって、高らかに「矜らん斯界の中堅我等」と校歌に謳っていることに納得ができたのです。



退任校長 山本 主税

そして、実際に 2 年間という短い期間でしたが、実に幾多の『斯界の中堅』たる素晴らしい卒業生の皆様に出会えることができました。今、教員生活の締めくくりにあたって身に余る光栄に浴することができた日々であったと感謝に堪えない気持ちです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

文武両道の高商健児

先ずは紫雲会 TIMES 創刊、誠におめでとうございます。松野会長の念願であった機関誌がこのように迅速に発刊されたこと、大変喜ばしい限りです。私は本校の卒業生で、毎年 6 月の理事・評議員会や 9 月の紫雲会総会のお手伝いをさせていただいております。現在、13 名の同窓職員が在籍していますが、何分高松商業は多忙な先生方が多く、本業の授業や部活動指導等の合間で役員会や資料作成などの業務を行っています。その関係で、至らぬ点が多々あるとは思いますが一生懸命、母校のために協力していく所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。さて、皆さんご承知の通り、高松商業の生徒は日々、勉学と部活動の両立に頑張っています。特に、部活動では運動部・文化部を問わず、多くの部が毎年全国大会に出場しています。諸先輩方、是非今後とも後輩たちに熱い応援を宜しくお願い致します。



昭和 61 年卒 校内幹事
谷畑 祐二

母校での勤務

平成二十五年より商業の教員として勤務しています。月日が経つのは早いもので、母校での勤務も十二年が経ちました。卒業生や地域の方々の方々に本校に寄せる期待や関心の高さを目の当たりにして、私も卒業生の一人として母校や後輩である生徒の力になりたいとの思いで紫雲会行事にも関わってきました。



昭和 63 年卒 校内幹事
田澤 香緒里

令和三年度からは、谷畑先生とともに紫雲会の校内幹事を担当しています。これまで役員会や理事・評議員会、本部総会等にも携わり、たくさんの方々や後輩達との出会いがありました。学んだ時代は違っても、高商 O B O G という縁で諸先輩方との会話は弾み、高商の話題が尽きることがありません。また、皆様方からいただくご支援やご声援は、勉学と部活動の両立に頑張っている生徒や我々教員にとっても大変心強いものとなっています。今後とも同窓職員として、母校のために皆様方の期待に応えるべく尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第97回「選抜高校野球大会」春の選抜へ出場



写真提供／現役高生写真部



高松商が早稲田実業に惨敗

2025年3月22日（土）、第97回選抜高校野球大会1回戦で、早稲田実業（東京）が高松商業（香川）を8対2で破り、101年前の第1回大会決勝以来の対戦で初勝利を収めました。この勝利で早稲田実業は、大正、昭和、平成、令和の4元号で甲子園春夏勝利を達成した史上7校目の学校となりました。史上初めて大正、昭和、平成、令和の4元号で甲子園春夏の勝利を達成したのは、松商学園（長野）です。2番目が高松商と聞いております。試合当日「応援バス」は、JR高松駅を午前2時半に出発し10時からの試合で精一杯の応援をしました。早稲田実業宿舎に前日、王貞治と荒木大輔両先輩が激励に入ったとか。世界の王さんに負けました。



昭和 36 年卒
山口 富士雄 倶楽部顧問
元阪急ブレーブス(現オリックスバファローズ)

甲子園大会のヒーロー山口富士雄先輩を、先の甲子園球場では大勢が取り囲み、取材していました。わが創刊号、どうしてもレジェンド山口富士雄氏の元気な姿を掲載しなくては、はじまりません。そんなスパーヒーローの山口富士雄先輩を捕まえて、取材しました。

1960年（昭和35年）の第32回選抜高校野球大会において、高松商業高校（高松商）は若



昭和 46 年卒
大北 敏博
元巨人軍

私の甲子園

第52回全国高校野球選手権大会に私が出場して半世紀が過ぎました。県予選大会を勝ち抜き、北四国大会へと進みました。この時代は北四国の香川・愛媛から1校しか甲子園に出場することが出来ず、初戦愛媛代表の新田高を4対0、そして決勝戦は奇しくも香川県もう1校の代表校の坂出商でした。試合は両者譲らず、高松商9回裏代打橋谷の決勝犠打で1対0サヨナラ勝ちして甲子園へ行きました。坂出商は私が生まれた町にあり、幼なじみが多かったチームで、勝つことが出来て大変うれしかったことを今でも覚えております。そして甲子園大会では1回戦の静岡高を16対0、2回戦の広島商を1対0、3回戦熊谷商を7対0と征し、準決勝へと駒を進めました。次の対戦相手はPL学園、試合は思いもよらず5対16と大敗しました。本当に悔しい思いでいっぱいでした。ここで大敗しましたが、私はこのチームで全国優勝がしたかった。出来たチームだと、今でも思っています。私の高校3年間で一番は、甲子園出場を決めた坂出商戦でした。戦後高松商は夏の大会での優勝がありません。後輩達の頑張りに期待しています。

宮誠一監督のもと、エース・松下利夫投手と主将・山口富士雄選手を中心に活躍しました。初戦で平安高校を4-1、続く滝川高校を2-0、北海高校を2-0で下し、決勝戦に進出しました。そして決勝戦は1960年4月8日に行われ、鳥取県の米子東高校と対戦しました。

試合は4回表に米子東が先制し、4回裏に高松商が同点に追いつく展開となりました。そして1-1の同点で迎えた9回裏、山口富士雄選手が左翼ラッキーゾーンへのサヨナラ本塁打を放ち、高松商が2-1で勝利し、優勝を果たしました。この山口選手の本塁打は、選抜高校野球大会の決勝戦において唯一のサヨナラ本塁打として歴史に刻まれています。

また、山口選手は当時の主将としてチームを牽引し、その活躍は高松商の戦後初優勝に大きく貢献しました。1960年の優勝は、日々の厳しい練習の成果でもありました。当時の監督・若宮誠一氏の指導の下、選手たちは猛練習を重ね、その努力が劇的な勝利につながったと山口富士雄先輩は、ボツリと。甲子園大会を語るなら、記録に残る第1回選抜高校野球大会について。

第1回全国選抜中等学校野球大会（現在の選抜高等学校野球大会、いわゆる「春の甲子園」）は、1924年（大正13年）4月1日に愛知県名古屋市の八事球場で開催されました。この大会で、現在の高松商業高校（当時の高松商業学校）が優勝しています。全国から8校が選抜されて出場し、高松商業（香川）対早稲田実業（東京）の決勝戦が5日におこなわれ、高松商2-0早稲田実業で高松商が初代選抜王者になりました。この優勝により、高松商は四国勢として初めて



令和 5 年卒
渡辺 和太
慶應大の二刀流を目指して

慶應大学野球部に新たな歴史を刻む

2021年夏の甲子園25年ぶりのベスト16、2022年夏の甲子園、52年ぶりのベスト8、の経験をさせて頂き、高松商業高校を令和5年3月卒業いたしました。現在、慶應義塾大学3年生で、体育会硬式野球部に所属し、東京六大学野球では、2024年の昨秋、最優秀防御率のタイトルを獲得することができ、大学日本代表候補に選考頂きました。

2025年の今年は、東京六大学野球連盟、結成100周年となる年です。偉大な先輩たちが歴史を残してきたこの場所、自分自身も新たな歴史を作れるように日々努力しています。チームとしては優勝を目指しているので、先発を任される立場として試合をしっかりつって、勝利に貢献し、昨年よりも、良い成績を残して、リーグ最優秀防御率、ベストナイン獲得を目標としています。投手として、東京六大学野球100年の歴史で、3人しか成し得ていない完全試合を達成したいと思っています。

そして、結成101周年目となる来年4年生時には、DH制が導入されますが、得意としている打者としても勝負したいと考えていて、投手と打者の二刀流で、挑戦することを大学野球の集大成としたいと考えています。母校の後輩たちに負けないうように、これからも、邁進し続けていきます。応援、よろしく願います。

岡田紀明氏逝去

去る4月21日高松商業野球部元監督 岡田紀明氏（昭35年卒業）が逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。



紫雲会の東京支部・大阪支部の皆様より紫雲会TIMESへ、メッセージをいただきました。

大阪支部だより



昭和 50 年卒
外山 公一
大阪支部 支部長

センバツ高校野球の思い出と現在

私が在校していた昭和47年春から昭和49年春までのセンバツ出場は昭和48年春に1回ありました。1回戦は、向陽高に1対0で勝利し、2回戦では鳴門工に1対5で敗戦となりました。高松商業に入学して、応援の練習を体育館でやっており、その際に練習した応援歌や帽子を持って振りかざしたりしていたことを思い出します。

また、今年3月で卒業して丁度50年が経過致しました。

高校を卒業して都市銀行に入行し21年間勤

に行こう」と誘われ行ったのが平成28年春の選抜(準優勝)でした。それ以来高松からも同級生も来るので同窓会を兼ね、甲子園に応援に行くようになりました。

甲子園は私の高校時代・新入社員時代を思い出させ、これからの思い出作りの場を提供してくれるでしょう。



昭和 50 年卒
森 正治
大阪支部 常任理事

私の甲子園

私は、高商を昭和50年に卒業しました。英語実務科だったので、部活ができず、野球とも疎遠でした。1年生の夏に甲子園に出場し、3回戦まで進みましたが、銚子商業に負けました。すべてテレビでの応援でした。

就職して、兵庫県川西市に移住しました。甲子園まで15kmと近いのです。高商が甲子園に来るたびに、自転車(1時間半ぐらいかかる)で応援に行っていました。

そして、2016年の春、私が定年の年でした。1回戦の「いなべ総合」に7-6で競り勝つと、その勢いでどんどん勝ち進んでいきました。大正、昭和、平成と優勝する最初の高校かと盛り上がりました。選抜開催時に4日も会社を休んで甲子園で応援しました。結果は智弁学園に延長の末負けて、準優勝。あの1回表の攻撃がなんとも惜しまれる。

今は、紫雲会大阪支部に入って、支部の仲間と応援しています。こうして、甲子園に来

務した後、ゲーム開発会社に転職し6年後には社長になり、米国・中国・韓国・台湾・香港・マカオも仕事で出張し約23年在籍した後に現在には製薬会社で役員として勤務しております。高松商業を卒業したからこそ、今の経歴になることができたものと大変感謝しております。

現在は、紫雲会大阪支部の支部長に22年6月の定時総会で就任し、まもなく4期目に入ります。私が、紫雲会大阪支部に参加をし始めたのが正に平成28年春のセンバツで準優勝したあとの大阪支部総会でした。確かその時の総会の参加者数は、150名を超えていたかと思えます。ここ3年は、毎年約80名前後となっております。

やはり、総会の集約力は高松商業野球部の活躍が担っていると言っても過言はないと思います。今年の春のセンバツは残念な結果となっていました。また夏に戻ってくることを祈念して終わりたいと思います。

紫雲会大阪支部を今後共よろしく願います。



昭和 46 年卒
大森 茂
大阪支部 事務局長
元生徒会長

生徒会は中学校に宿泊

紫雲会TIMES創刊号発刊にあたり高松商業とご縁のある西宮市立上甲子園中学校をご紹介します。

昭和46年の第52回夏の大会は、好投手大北を擁して一回戦、二回戦、準々決勝と勝ち進みました。勝ち進んで試合間隔が詰まってく

られるのは、今も頑張っている高商野球部のおかげです。ありがとう。



平成 2 年卒
岩本 真由美
主婦 & 作家

夢と感動の甲子園

1990年に高商を卒業してから35年になります。私の高校時代には甲子園で高商を応援することは叶いませんでした。そのまましばらく甲子園から遠ざかっていましたが、2016年、20年ぶりに春の選抜大会に出場すると、なんと準優勝！その後、高商は春・夏の甲子園に何度も出場し、2022年の夏には、52年ぶりのベスト8という快挙。私はその夏の3試合すべてを甲子園のアルプスで観戦しました。現在、プロ野球選手として活躍されている浅野翔吾選手が放った1大会3本のホームランを目の当たりにして感動しました。甲子園球場は何度訪れても美しく、忘れられない名シーンや数々のドラマが生まれます。その素晴らしさに胸が熱くなります。

そして高商時代の仲間や先輩方、懐かしい方々と甲子園のアルプスで再会できたことも大きな喜びでした。夢と感動をありがとう、さいます！



「甲子園でもう一度
きみに逢えたら」
ペンネーム片瀬真唯子
岩本真由美著

ると高松へ帰る時間がなくなり、そこで甲子園球場から北へ約1300メートル程のところに位置する同中学校の作法室をお借りして宿泊し、そこから徒歩で甲子園球場へ応援に行きました。この大会は、惜しくも準決勝でPL学園に5対16で敗れ、この年の私の夏も終わりました。

作法室をお借りした返礼として、「坊ちゃん」こと畠山先生のご指導のもと、作法室の襖と障子を張り替えてから帰路につきました。そのとき、「これも高松商業の伝統行事の一つである」と教わりました。

現在では、明石海峡大橋が開通し甲子園までの所用時間が短縮されたので、私の世代が同中学校に宿泊した最後の経験者であると思いますのでここに掲載させていただきました。



昭和 44 年卒
永井 孝志
大阪支部 幹事

甲子園と私

高松商業高校を卒業して大阪の某都銀に就職しました。独身寮に入り5つ先輩の方と相部屋に、何と松山商業卒の方でした。数年間内部事務の研修の後、「外交業務」を任命され

信を持って「高松商業です！」ところがお客様の反応は「あー、昔野球の強かった学校やね？」15年くらい前に紫雲会大阪支部の役員を仰せつかり、会計を担当することになりました。9年前には、20年ぶりに甲子園出場。大阪支部事務局ではそれまでの寄付金の募集の



平成 18 年卒
植松 良介
第 96 代 主将

恩おくりあおだも育成の会

この度は第97回選抜高校野球大会出場おめでとうございます。後輩達の頑張りに、私自身も沢山の刺激を受けながら毎日を過ごしております。卒業して19年になりますが、当時の事を少し振り返ってみました。

私達の代は、秋季大会優勝、四国大会敗退、春季大会優勝、チャレンジマッチ勝利、夏季大会3回戦敗退と、甲子園まであと一步の世代。夏の大会まで、県内では負け知らずで、チャレンジマッチを含めると3本の優勝旗を持って帰る事ができた世代でした。

今、社会に出て沢山の経営者や野球関係者とお話をさせてもらい、私は当時の目標設定に後悔があります。私達の目標は「甲子園に行く！」という目標でした。しかし、強豪校は「甲子園で勝つ！」なんです。これを高校時代に知っていたら…と少し後悔しています。そして最近の高商球児たちをみてみると、身体がデカイ！これも長尾監督をはじめ、マネージャー達の協力により徹底した食事管理の賜物だと感じしております。

私は今、大阪北新地で美容室を経営し、毎日現場でお客様を担当しております。野球とは離れた業界ですが、私のような美容業でも何か野球界に貢献できることはないかと模索中に福井県のお箸屋さんとお会いしました。そして今年から福井県のお箸屋さんタッグを

仕方を誰も知りません。急遽、関西在住の卒業生に寄付金依頼のお手紙を出しました。あとでわかったことですが本部がすべてを決まりでした。しかし、寄付金は348件394万円が集まりました。どれだけ皆が待ち焦がれていたかがわかります。今回のセンバツは選手たちも実力を発揮できずに終わりました。夏を目指して頑張ってください。



昭和 44 年卒
國方 重孝
大阪支部 顧問

私の甲子園

私が高松商業に入学した時、応援部が放課後に新入生を校舎の屋上に集め、校歌・応援歌・応援の振り等を指導してくれました。今でも校歌・応援歌が歌えるのはそのおかげです。北四国大会では授業を休校にして高松中央球場にクラス全員で学校から歩いて応援に行ったのを思い出します。

私は進学クラスで「甲子園応援なんてとんでもない！」と言われそうで高校時代は甲子園での応援には行きませんでした。昭和43年夏の静岡商戦はテレビ応援で大敗に悔しい思いをした記憶があります。

大学進学後、就職したのがスポーツ会社で母校が出場すれば社用で応援に行けたので応援にも行きましたが、出場しても1・2回戦での敗退が続き、仕事が忙しかったこともあり、高校野球熱は冷めていきました。

定年近くなって、紫雲会大阪支部会に参加するようになり「今年の高商は強いので応援

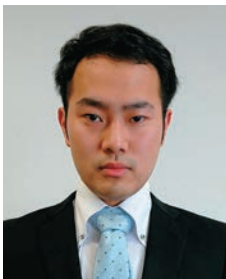
組み、折れたバットをお箸に再生する「かつとばし」プロジェクトを行うことになりました。売上の一部は、あおだも育成の会に寄付をしています。バットの原材料となる、あおだも木の保護、育成に当てるプロジェクトです。高商球児達が甲子園で活躍する姿をみると、私も高松商業で野球ができて本当によかったと思う瞬間がとて多いと同時に恩も感じます。私自身、微力ではありますがそんな高松商業に恩返しではなく「恩送り」をしていきたいと強く思っております。この「恩送り」が未来に続いていく事を願い、今後の高松商業野球部の健闘を祈ります。



平成 19 年卒
桂 福枝
(本名 大畑雄太)
上方落語家

改名記念凱旋 まんでがん落語会大盛況！

この度は、2年ぶりのセンバツ出場おめでとうございます。私の学生時代は春夏一度も甲子園には行けませんでした。その後輩達のご活躍(野球部ではないのですが)OBとして、大変誇りに思います。育てくれた方への感謝を忘れず、思う存分元気に楽しんでもください。感謝がなぜ大事かと問うたら、これがはんまの孝行野球!!チャンチャン!!?お後が宜しいようで。香川、大阪を中心に活動しております上方落語家の桂福枝です。私も、後輩の皆様になげず笑いの社会ふくし活動頑張ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。



平成 25 年卒
山下 悠輔
大阪支部 役員

野球部なんて大嫌いだ！

私は高松商業野球部が嫌いでした。理由は2点あります。1点目は私の父が高校3年生の時に高商に負け、甲子園出場のを機会を失ったこと、2点目は所属していたバドミントン部のほうが近年の全国出場率は高いにもかかわらず、ここに行っても「野球の高商だよな」と言われるからです。しかし、2016年にセンバツで惜しくも準優勝となったことで、現場の熱量も含めて「野球の高商」が間違いではないことが分かり、その嫌悪感はなくなりました。

先日、「古豪」と「伝統校」の違いという記事を目にする機会がありました。「古豪」は昔強かったが、その後の成長がない学校。「伝統校」は古き良き伝統は引き継ぎながら新しい感覚も取り入れる温故知新な学校を指すという内容の記事でした。近年の高商はドラフト1位で巨人に入団した浅野選手がいるように伝統校としての風格を取り戻していると思いますので、今年のセンバツでも全国優勝を目指し頑張ってください。我々高商OB一同も応援しております。



昭和 54 年卒
堀 眞英
東京支部 支部長

紫雲会TIMES創刊 おめでとございます！

高松商業高校OB・OGの高校時代の思い出に浸る場所、後輩生徒の活躍を応援する集い、健康でまた1年元気で頑張れる活力を蓄積できる会が紫雲会です。

都合が合わなくて総会に出席できない方々へ情報を発信、共有できる機関紙「紫雲会TIMES」がOB・OGの心を繋ぐ機関紙になることを東京支部役員一同祈念しております。



昭和 46 年卒
岡本 えり子
元副支部長

人生の宝もの

「ふるさとは遠きにありておもふもの」室生犀星。穏やかな瀬戸内海を時折、思い出しながら友の顔、お世話になった先生の笑顔が浮



平成 28 年卒
江村 佳哲
大阪支部 役員

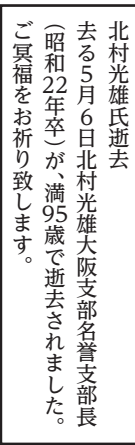
高商野球部への恩返し、指導者としての決意

高校時代の目標は、高商野球部で甲子園に出場することでした。しかし、それは叶わず、最後の夏はベンチ入りもできませんでした。それでも、野球を通じて得たものは、当時感じた悔しさよりも大きく、今の自分につながっています。

現在、兵庫県の公立高校で教員として働く中で、高商野球部を通じて多くの縁に恵まれました。その経験から、母校への恩返しをしたいという思いが強くなりました。

私の今の目標は、高商野球部の指導者となり、技術向上だけでなく、人間的な成長を促す指導を行うことです。選手一人ひとりが誇りを持てるチームを築き、彼らの人生にとって価値ある経験となるよう尽力したいと考えています。

また、107代野球部の同期をはじめ、全国で活躍する高商の先輩・後輩の皆さんに、野球を通じて感動と熱いエネルギーを届けたいです。高商野球部の伝統を受け継ぎながら、次世代へとつなげる指導を目指します。



北村光雄氏逝去
去る5月6日北村光雄大阪支部名誉支部長（昭和22年卒）が、満95歳で逝去されました。ご冥福をお祈り致します。

かんできます。「文武両道」の伝統校「高松商業」で過ごした3年間は「人生の宝もの」です。

部活を通して学んだ「礼節」と「根性」。いつの時も向上心を持って生きていく。苦しい時に立ち向かう強い気持ち。活気ある放課後の部活動を思い出し、自分自身を励まして生きて来しました。

私達の時代の高松商業は、どの部も全国大会出場レベルでした。練習中の眼差しは生徒も先生も真剣そのものでした。「努力があるから勝利をつかむ」そんな中私は、女子バレー部。チームワークは抜群でしたが、いつも1回戦敗退のチーム。それでも他の部活の気迫に支えられてチーム一丸となり目標に向かって毎日練習しておりました。

高3の夏、甲子園出場の野球部。準決勝の応援に貸切バスで夜に高松出発、まるで修学旅行のようでした。到着したら雨で試合中止。懐かしい思い出です。校内の廊下で行き交う挨拶。「チワ」「チワ！」挨拶を大きな声でできる習慣が身に付きました。

高商文化祭では、フォークバンドを組んで赤い鳥の「誰かのために」を歌いました。

高校卒業してもう54年。あつという間の年月でした。皆様、お元気ですか？



昭和 53 年卒
花田 千万里
本部評議員

昭和100年といわれる今年、私は昭和50年に入学しました。高松商業近くで育ち、夢は高商生になり甲子園へ応援に行く！夢は叶

東京支部だより



昭和 31 年卒
安西 愈（弁護士）
東京支部 名誉支部長

紫雲会東京支部の歩み —— 20年前の大改革で発展 ——

紫雲会東京支部は、昭和8年（1933年）頃、東京においても母校支援と卒業生の親睦の集まりをもととの気運が出て、鈴木祥枝（第1回卒、東京海上火災社長）、松本昇（第1回卒、資生堂社長、鎌田正明（第2回卒、東京商工中金理事長）の3名が中心となり、昭和10年（1935年）頃、高松商業の同窓会を発足させ、岡内英夫氏（当時資生堂社長秘書）などが事務にあたった。

その後、戦争中の中断期間はあるものの、もうすぐ創立百年を迎える。

その間の歴代支部長は、初代鈴木祥枝氏（明治36年卒）、二代鎌田正明氏（明治38年卒）、三代岡内英夫氏（大正15年卒）、四代伊丹宏文氏（昭和12年卒）、五代溝淵利幸氏（昭和28年卒）、六代安西愈氏（昭和32年卒）、七代北条勇氏（昭和39年卒）、八代堀眞英氏（昭和54年卒）

と継続してきた。

紫雲会東京支部は、溝淵氏（当時サンミ高松社長）が支部長就任後の平成16年頃から従来の大先輩の費用負担に頼る運営から「会員による会員のための同窓会」をスローガンに大改革に着手し、榎本恵一支部長代行（昭和32年卒）を中心に、会則、資金、組織、業務内容、会費制など大改革を進めた。この時会費を千円としたが、賛否の大議論があった。しかし、会費制に踏み切ったことが大成功で「みんなの同窓会」意識が強くなり、会費も多数の同窓生が拠出した。

会員の絆として機関誌を発行することとし、印刷業の楠昭次郎氏（昭和35年卒）の協力を得て、機関誌「紫雲会東京」を平成19年に発刊し、継続（18号）している。

また、平成25年の東京支部創立80周年記念大会は、支部の力を結集し、お台場のビッグサイト西館で香川からの参加者も多くあり、305名の参集を得て盛大に行った。

母校との関係では、杉ノ内義春氏（昭和28年卒）の応援団長の下、全国大会出場の母校の歓迎会や応援は欠かさず、また母校のための募金にも協力し、雨天練習場の建設が募金不足で県の許可取消のピンチの時、大阪支部と共同で募金予定額の半分を負担するなど精一杯協力してきた。

最近では、支部発展に貢献した榎本氏、杉ノ内氏、溝淵氏が相次いで亡くなられるなど高齢化が心配されたが、一気に支部長はじめ主要執行部が昭和54年卒中心に15年若返って新体制となり継続に心配はない。



ヒューって倒れ込んだり、立ち上がったたりしながら、大声を張り上げました。大変だったけど、みんなで力を合わせ応援したこと、とても印象に残っていて良い思い出です。そして今、この年齢になってもそんな思い出話をする、友人達にとっても羨ましがられます。誇りに感じます。現役の高校生の皆さんも、沢山思い出を作って、充実した高校生活を送っていただきたいものです。私たちOB・OGは、いろんな意味でできる限りの応援をしていきたいと思っています。



令和 5 年卒
櫛橋 隼人
アイルランド在住苦学生

浅野翔吾選手が同級生

「甲子園大会」という言葉を聞くと、どうしても浅野翔吾君が頭をよぎります。2年3年と同じクラスで、学校生活を共にしたからこそ、甲子園球場でのホームランや数々の活躍に感動しました。また自分がヨット部のキャプテンであったことから、同じ部長という立場で、チームをまとめながらしっかりと成績を残し、最終的にチームを全国ベスト8まで導く姿にも感動しました。成績という数字の世界だけでなく、人としても学べることが多く、刺激的で充実した高校生活が送れたと思います。今自分は、アイルランドで生活をしていて、自分なりに人生を切り開こうと日々精進しています。高松商で得た経験は間違いなく日々の糧となっていますし、これからも変わることはないと思います。沢山の経験を積み重ねて頂いたこと、心より感謝申し上げます。高松商の益々のご活躍をお祈りいたします。

年会費納入者

紫雲会年会費の納入のご協力ありがとうございました。引き続き会費納入と寄付金のご協力をよろしくお願いします。

年会費は紫雲会HPからでも決済可能です。是非ご利用ください。

HPはこちらから▶



卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名	卒年	氏 名		
プレミアム会員													
旧職員	横 山 賢 治	S30	真 鍋 啓 江	S39	池 田 政 廣	S44	山 口(向井)克子	S50	内 海 孝 三	S56	笠井(家常)夏子	H04	大 高 裕 之
S29	柏 原 正 弘	S30	小 山(岡)益代	S39	入 谷 裕 隆	S45	赤 澤 世 士	S50	宇 野 哲 弘	S56	木 野 伊 早 恵	H04	二 宮 万 裕 美
S29	七 條 章	S31	中 沢 修	S39	橋 本 史 智	S45	荒 元 忠 彦	S50	造 田 正 彦	S56	三好(橋原)由美	H04	中 川(阿部)奈緒
S29	樋 口 高 良	S31	上 原 忠 孝	S39	甲 邊(福家)俊子	S45	池 平 哲 夫	S50	滝 健 一	S56	田 中 範 子	H04	相 澤(竹内)麻希
S29	福 川 光 雄	S31	多田羅(萩田)貞三	S39	山崎(安西)勝美	S45	岩 瀬 修	S50	谷 利 仁	S56	横 間(山下)智子	H04	大 村(林) 忍
S30	市 原 武	S31	曾 根 健 二	S40	阿 部 登	S45	川 田 洋 二	S50	中 原 一 宏	S56	賀 野 耕 治	H05	松 尾(植田)吏絵
S30	佐々木隆則	S31	長 尾 武 夫	S40	石 田 孝 司	S45	香 西 清 一	S50	藤 沢 耕 一	S56	倉 沢(日下)礼子	H05	島 津(森田)景子
S31	堀 上 徹	S31	藤 澤 武	S40	井 上 利 光	S45	正 木 敬 昭	S50	松 下 晶 紀	S56	久 保 将 俊	H05	杖 池 知 史
S32	安 西 愈	S31	山 岡 恒 志	S40	岡 下 勝 俊	S45	宮 治 康 裕	S50	宮 武 徹	S56	藤 沢 重 美 子	H05	江 原(三崎)匂味子
S32	木 太 義 治	S32	山 田 二 郎	S40	鎌 田 勇	S45	村 井 佳 晴	S50	千 葉(一小路)博子	S57	赤 沢 正 則	H06	上 領 優
S33	西 村 泰 昌	S32	綾 清 志	S40	菅 能 郁 哉	S45	山 畑 喜 久 夫	S50	久保(龜山)紀美代	S57	石 田 万 盛	H06	北 岡 貴 志
S34	岩 沢 正 幸	S32	金 澤 茂	S40	光 本 時 人	S45	吉 田 弘 幸	S50	堀 江 研 二	S57	入 口 孝 一 郎	H06	関 本 大 介
S34	國 木 正 俊	S32	佐々木正裕	S40	湊 弘 二	S45	吉 原 修 二	S50	増 井 潔	S57	鎌 田 頼 明	H06	藤 井 大 剛
S35	山 田 太 郎	S32	橋 義 治	S40	村 尾 寿 世	S45	坂 本(岡田)恵美子	S50	濱 田(松本)吉隆	S57	小 早 川 明 央	H06	藤 本 寛
S37	雨 瀧 忠	S32	中 村 鉄 宏	S40	一原(内海)久美子	S45	宮崎(佐々木)千恵子	S51	入 倉 圭 司	S57	作 花 好 幸	H06	山 田 勲
S37	松 本 洋 篤	S32	橋 本 義 弘	S40	岡内(一二三)初子	S45	井上(高木)幸子	S51	植 原 孝 二	S57	山 本 寿 一	H06	小 川 美 樹
S38	真 鍋 健 彦	S32	藤 本 正 則	S40	三野(松井)公代	S45	高 橋 裕 子	S51	内 海 孝 教	S58	多 田 義 秀	H06	坂 上(米本)奈央
S40	米 田(谷)良三	S32	山下(池下)登志子	S40	村 上 敏 子	S45	谷 本(西村)文子	S51	籠 池 孝 夫	S58	松 下 幸 大	H07	石 原(白井)智子
S40	木 村 玲 子	S32	岩 瀬(小西)律子	S40	古 市(森岡)シヨコ	S45	佐々木(二宮)敬子	S51	川 筋 大 作	S58	安 部 俊 吾	H08	梅 垣 剛 士
S41	穴 吹 忠 義	S32	長 塩(齊藤)曉美	S41	石 原 敏 行	S45	島 本(溝淵)千恵子	S51	富 田 義 裕	S58	川 本 英 樹	H08	香 川 高 俊
S41	國 田 純 二	S33	東 原(黒川) 隆	S41	大 瀧 進	S46	庵 治 勝 巳	S51	平 木 一 令	S58	千 葉 健 志	H08	柴 田 孝 一 郎
S41	間 島 保	S33	齋 藤 喬	S41	川 井 利 二 三	S46	大 森 茂	S51	廣 田 克 浩	S58	広 瀬 正 人	H08	中 谷 俊 貴
S41	白 井 美 智 子	S33	末 澤 哲 夫	S41	峠 登	S46	川 崎 雄 二	S51	藤 井(釋氏)由美子	S58	吉 原(森田)直子	H08	平 井 謙 顕
S43	岡 義 博	S33	関 邦 義	S41	船 場 務	S46	香 西 康 伸	S51	津 川(藤沢)国子	S58	西 村 裕 司	H08	吉 田 成 良
S43	大 森(藤田)玄造	S33	谷 本 恒 夫	S41	松 原 健 一	S46	新 名 昭 雄	S51	川 田(松野)智子	S59	大 野 功 次 郎	H08	國 方 伸 一
S43	吉 本 和 美	S33	中山(赤松)美恵子	S41	山 崎 幸 輝	S46	十 河 照 一	S51	樫 原 茂 樹	S59	加 藤 安 崇	H08	矢 野 正 樹
S43	和 田 憲 明	S33	八木(唐渡)妃佐子	S41	山 下 憲 一	S46	長 尾 豊	S51	原 田 隆 弘	S59	松 原 康 頼	H09	明 石 慎 太 郎
S44	國 方(小西)美紀	S34	久保(五嶋)美智子	S41	山 田 孝 士	S46	西 川 正 己	S51	萬 納 宏 俊	S59	青 木(松本)有美子	H09	大 石 有 児
S45	佐 達 佳 民	S34	井 上 宏	S41	穴 吹(江村)和子	S46	渡 辺 光 哲	S51	三 原 芳 裕	S59	国 米 博 之	H09	藤 野 和 彦
S45	松 永 努	S34	植 松 孝 司	S41	中井(大林)キヨ子	S46	安 川(赤松)孝子	S51	堀 田(山口)真理子	S59	砂 川 吾 一	H09	生 田(松本)久美
S46	小川(杉/内)秀憲	S34	漆 谷 芳 幸	S41	鈴 木(岡)まり子	S46	岡 本(安藤)えり子	S52	綾 田 哲 也	S59	横 田 悦 朗	H09	造 田(山下)雅代
S46	松 野 誠 寛	S34	岡 田 茂 弘	S41	磯 崎(川田)幸代	S46	佐 藤(木出)衣重	S52	池 田 泰 司	S60	上 池 浩 城	H10	大 石 乃 輔
S46	本 多(飯沼)市子	S34	川 田 勝 美	S41	浪 花 和 子	S46	田 中(瀬尾)朋子	S52	泉 谷 一 暢	S60	熊 野 晃 彦	H10	坂 東 正 義
S47	南(松原)敬子	S34	鈴 池 幾 馬	S41	宮 武 文 雄	S46	辻 ひ ろ 子	S52	稲 井 光 男	S60	佐 藤 修 吾	H11	村 川 貴 訓
S47	安 田 和 文	S34	土 肥 清 茂	S42	梶 隆 晴	S46	井 筒(中井)智恵子	S52	大 橋 和 夫	S60	鈴 木 総 一	H11	平 田 有 一 郎
S50	平田(田村)真由美	S34	福 嶋 哲 夫	S42	川 田 正 義	S46	織 野(中井)恵子	S52	木 下 敏 光	S60	濱 田 幸 男	H11	平 田 麻 優 子
S51	中 筋 政 人	S34	松 川 正 雄	S42	後 藤 幸 生	S46	谷(武藤)和子	S52	後 藤 裕 之	S60	山 崎 伸 哉	H12	平 川 盛 博
S54	高 崎 浩 之	S34	宮 武 昭 夫	S42	四 角 清	S47	磯 野 英 史	S52	橋 川 慎 司	S60	岩 手(中井)直美	H13	久 米 達 也
S56	齊 藤 良 紀	S35	山 中(宮武)イツ子	S42	十 河 清	S47	岸 本 壽 美 夫	S52	三 好 克 弘	S60	鎌 倉(山下)裕子	H14	中 林 靖 詞
S56	齊 藤 良 紀	S35	奥 田 司 郎	S42	田 井 和 比 克	S47	田 中(佐藤)長生	S52	横 山 一 宏	S60	橋 本 貴 広	H14	中 西(筒井)明奈
S56	笹 原 勝 彦	S35	片 岡 純 二	S42	高 尾 雅 美	S47	神 内 博 喜	S52	入 野(坂田)恵理子	S60	廣 瀬 功 二	H14	富 田(川口)敏子
S57	長 尾 幸 彦	S35	川 崎 英 治	S42	田 中 正 通	S47	田 井 邦 彦	S52	藤 原(佐々木)美緒	S61	中 條 伸 一	H15	中 元 翔
S57	角 正 純	S35	黒 川 俊 雄	S42	飯 間 ミ ッ 子	S47	辻 山 政 男	S52	寒 川(八坂)直子	S61	有 村(伏見) 幸	H16	真 田 雄 規
S58	福 田 誠 治	S35	高 岸 久 典	S42	平 田(橋原)文代	S47	日 詰 昭 宣	S52	今 岡 安 樹	S61	石 井 一 嘉	H17	大 前 勇 輔
S59	都 築 信 行	S35	高 橋 正	S42	伏見(長谷川)和子	S47	町 川 由 典	S52	土 取 孝 弘	S61	谷 畑 祐 二	H17	平 見 剛
S60	多 田 正 伸	S35	多 田 逸 方	S42	高 津(福田)夏代	S47	村 上 謙 二	S52	本 間(西風)葉々	S61	坂 東 加 代	H17	初 瀬 悠 太
S60	吉 本 博 文	S35	増 田 修 也	S42	國 方(松本)育子	S47	森 上 彦	S52	野 網 秀 幸	S62	荒 木 壮	H18	阿 部 優 太
S60	松 本(岸)静香	S35	宮 武 勝	S42	山 田 幸 子	S47	森 敏 行	S53	小 野 山 正 彦	S62	香 川 真 志	H18	河 内 美 穂
S62	中 橋 政 彦	S35	山 上(福田)桐	S42	周 木 卓 次	S47	佐 藤(大滝)千代子	S53	中 川 真 一	S62	杉 本 健	H18	高 畑(佐藤) 光
S62	前 田 武	S36	石 村 楓	S43	池 内 國 義	S47	佐々木(小西)照代	S53	長 尾 嘉 弘	S62	鈴 木 英 敬	H18	真 鍋 亜 衣
S63	田 澤(高橋)香緒里	S36	岩 部 和 一	S43	市 原 行 富	S47	高 木(安川)恵子	S53	一 二 三 勝 美	S62	造 田 耕 三	H19	高 砂 耕 大
H03	木 村 構 作	S36	橋 邦 宏	S43	小 川 美 恵	S47	吉 田 靖 子	S53	森 野 洋 二	S62	松 本 哲 也	H19	田 中 育 太
H03	谷 木 伸 行	S36	山 口 富 士 雄	S43	小 田 忠 康	S47	渡 辺(頼富)美鈴	S53	安 田 等	S62	吉 田 誠	H24	栗 塚 寛 也
H03	原 田 秀 一	S36	吉 田 勝 昭	S43	川 津 晃	S47	間 島(大西)伴枝	S53	夏 間(石川)記代	S62	今 滝(湊) 裕 子	H24	細 川 大 輔
H05	多 田 健 一 郎	S36	岡 田 克 子	S43	川 端 悟	S47	岡 本 敏	S53	宮 本(白井)清子	S62	中 村(中筋)順子	H25	堀 江 真 史
H09	住 谷 篤 志	S36	麗(高木)淑子	S43	山 本(堀田)清幸	S48	天 野 宏 一	S53	長 尾 喜 久 代	S62	西 森(西森)千鶴	H27	片 山 稔 之
H10	山 地 一 慶	S36	岡 田 定 夫	S43	白 井 美 昭	S48	岡 行 雄	S53	成 木 真 由 美	S62	濱 井 康 紀	H28	江 村 佳 哲
H16	浜 崎 孝 佑	S37	荒 巻 正 典	S43	竹 本 勝	S48	垣 鈴 安 英	S53	花 田 千 万 里	S63	兼 田 勇 士	H28	小 野 賢 志
H19	大 畑 雄 太	S37	飯 間 勝	S43	長 尾 信 幸	S48	七 宮 隆	S53	金 倉(藤沢)容子	S63	高 尾 豊 弘	H31	佐 藤 優 多 郎
		S37	上 北 剛	S43	福 嶋 康 泰	S48	田 中 久 敬	S53	岩 部 達 雄	S63	中 條(井手下)早苗	R02	荒 木 日 彩
		S37	大 野 昌 三	S43	星 野 貞 義	S48	牧 淳 一	S53	竹 内 義 高	S63	沖 田 紀 子	R02	真 泉 開
		S37	島 原 俊 二	S43	末 澤(宮崎) 仁	S48	青 木(植田)五月	S53	若 林(三日月)真弓	S63	富 川 幸 三	R03	長 尾 和 真
		S37	高 嶋 明	S43	矢 野 健 二	S48	山 畑(岡) 照 代	S54	石 井 浩 充	S63	三 野 健	R03	瀬 川 航 平
		S37	高 嶋 久 雄	S43	山 口 秋 男	S48	河 野(梶原)文子	S54	上 枝 一 郎	S63	野 崎 裕 之	R04	佐 藤 海 七 多
		S37	中 村 一	S43	安 川(池下) 恵	S48	岡 井(菊井)愛子	S54	岡 本 義 弘	H01	増 田 勝	R04	太 田 彩 華
		S37	細 溪 英 一	S43	江 口(菅) 容 子	S48	平 井(笹尾)朱実	S54	川 原 敏 秀	H01	田 上(岡本)真理	R04	山 崎 悠 矢
		S37	宮 光 一 弘	S43	田 中(住谷)博美	S48	岡 田(山口)久美	S54	工 晋	H01	大 山(花澤)明子	R05	運 天 颯 真
		S37	森 本 正	S43	金 山(高橋)寿美子	S48	岡(吉田)桂子	H01	居 林 昌 宏	H02	堀 田 次 郎	R05	野 崎 大 輔
		S37	山 岡 謙 三	S43	辻(谷口)陽子	S48	井上(木村)正紀	S54	間 瀬 省 司	H02	畑 中 文 太 郎	R05	三 宅 真 央
		S37	若 宮 利 夫	S43	PAGE 純江(戸田)	S49	粟 井 敏 文	S54	松 本 仁 志	H02	畑 中 文 太 郎	R05	吉 原 慶 祐
		S37	碓 井(中田)茂美	S44	有 岡 信 次	S49	岩 部 正 俊	S54	三 好 宏 二	H02	前 川 健 一	R06	青 柳 孝 太 朗
		S37	高 坂 勝	S44	植 松 時 博	S49	岡 内 克 泰	S54	渡 辺 章	H02	横 山 和 哉	R06	石 井 友 翔
		S37	蓮 井 武 志	S44	兼 島 博	S49	亀 山 紹 也	S5					

◆令和7年度 紫雲会組織

紫雲会本部（事務局）

会長 松野誠寛
副会長 國方美紀、中筋政人、齊藤良紀、松本静香、中橋政彦、木村構作
事務局長 多田健一郎
監査 穴吹忠義、矢野美奈子
学校事務局 谷畑祐二、田澤香緒里、大高直土
〒760-0068 香川県高松市松島町1-18-54 香川県立高松商業高等学校
TEL (087)833-1971 FAX (087)862-3229

紫雲会東京支部（事務局）

支部長 堀 眞英
副支部長 山中イツ子、藤川和信、成田親王
事務局長 丸尾恭久
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町1丁目1-12 プラザANSビル7F
(株)全日警ビルサービス内 堀 眞英
TEL (03)5820-9123 FAX (03)5820-9124

紫雲会大阪支部（事務局）

支部長 外山公一
副支部長 國宗勝彦
副支部長兼事務局長 大森 茂
副支部長兼会計 岡田忠義
〒663-8224 西宮市今津真砂町1-23-106
TEL (080)3106-1932

令和6年度事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

役員会及び理事・評議員会

5月24日(金) 第1回役員会
6月29日(土) 理事会・評議員会
11月7日(木) 第2回役員会
11月15日(金) 臨時役員会

紫雲会行事

7月5日(金) 第1回みんなの同窓会
場所：瓦町フラッグ屋上ピアガーデン
11月9日(土) 第5回女子会 場所：La' なら別館 絆
3月4日(火) 卒業生紫雲会入会式 場所：本校北体育館
3月5日(水) 卒業式 場所：本校北体育館
3月22日(土) 第97回選抜高校野球大会応援

本部・支部総会

6月8日(土) 大阪支部総会 場所：大成閣
7月6日(土) 東京支部総会 場所：品川プリンスホテル
9月23日(月) 紫雲会総会 場所：ホテルパールガーデン
(幹事団：平成12、13年卒)

令和7年度事業計画

(2025年4月1日～2026年3月31日)

行事予定（役員会及び理事・評議員会は除く）

4月19日(土) 第1回紫雲会ゴルフコンペ
場所：高松グランドカントリークラブ
6月14日(土) 大阪支部総会 場所：大成閣
7月5日(土) 東京支部総会 場所：KKR ホテル東京
9月21日(日) 紫雲会総会
場所：ホテルパールガーデン
(幹事団：平成14、15年卒)
夏頃予定 第2回みんなの同窓会
秋頃予定 第6回女子会
3月 卒業生紫雲会入会式及び卒業式

*紫雲会 TIMES 作成の都合により、各年3月末時点での行事報告及び予定としております

編集後記

いよいよ紫雲会TIMESが創刊された。編集責任者として発刊にかかわってくださったすべての皆様にまずは感謝を申し上げます。ご苦勞様でした。創刊という言葉を企業に例えれば創業、という言葉になるのであろう。卒業生同志の絆を深めるツールの役割を担うこの会報誌は「Going Concern」として継続してゆくことが当然の使命である。ぜひ皆様のちょっとした「自分ごと」を、今後の紙面に反映させてください。皆さんの力で紫雲会TIMESを育ててください。高商らしく、自由に、志高く！（紫雲会TIMES担当副会長 齊藤良紀）



編集責任者 左から
松野誠寛（S46年卒、紫雲会会長）
國方美紀（S44年卒、紫雲会副会長）
齊藤良紀（S56年卒、紫雲会副会長）
高木康晴（高松商業高校事務部長）
谷畑祐二（S61年卒、学校事務局）
多田健一郎（H5年卒、紫雲会事務局長）



創刊号制作担当（オール高商!）左から
大高 裕之（H4年卒、ムレコミュニケーションズ）
葛城 久子（H22年卒、ムレコミュニケーションズ
：デザイナー）
多田 義秀（S58年卒、ムレコミュニケーションズ）

表紙撮影
鍋坂 樹伸（H6年卒、サンスタジオ）